

セミナー「将来のかながわを担う若者世代と一緒に地球環境問題について考えよう」
令和7年1月18日（土曜日）開催

【発表概要】

「海ごみ対策の先進的なモデルケース「かながわ海岸美化財団」の取組」

公益財団法人かながわ海岸美化財団
柱本 健司

海のごみは、「日常的」・「継続的」に発生するもので、一度片付ければ解決するものではない。そうしたごみを無くすためには、どれだけ1回に沢山の人を集めるかという意図で、一過性のイベントを開催するよりも、誰もが、いつでも、どこでも、気軽にごみを拾える仕組みを構築することが大切である。

その仕組みが、かながわ海岸美化財団（以下、美化財団）のボランティア支援。この支援の仕組みが大いに活用されて、神奈川県では年間16万人を超えるボランティアの方々が日常的にビーチクリーンに取り組んでいる。

また、美化財団が、海岸清掃だけでなく、ボランティア支援も行うことにより、重機などを使用して広い範囲を短時間で清掃する美化財団の清掃と、人の手で細かいごみを一つ一つ拾い集めるボランティアの清掃を連動させることができる。（こうした仕組みは全国で唯一）

そのため、神奈川県は海岸ごみが非常に多いエリアでありながらも、海岸ごみを早く、安く片づけることができ、ボランティアと連携した美化活動のある種の理想形が実現されていると言える。

しかし、課題も残っている。それは、これだけ社会的な関心が高まってはいるものの、海岸のごみが減っていないことだ。

先日も、海岸で今から40年以上前のお菓子の袋が見つかった。昔、捨てたものが現在の海岸環境に影響を及ぼしている証である。

とすれば、今、ごみを捨てると未来の海岸を汚すことになる。今の行動が未来を変えていく。未来から「イイね！」をもらえるよう、今から取り組んでいくことが大切である。